

# 牛久：学校周辺に見る自然

第68号 中根小

2012年2月17日発行

## ＜ 冬の校庭観察 ～2. ロゼット ＞

1/26、中根小4年生の校庭観察。今回は、ロゼット。地べたに葉を広げて冬を越す状態を、まるでバラの花のような姿から「ロゼット」と呼んでいます。これにはタンポポのように一年中ロゼットの葉をひろげているものもあれば、ノゲシやヒメジョオンなどのように冬季だけロゼットで過ごし、他の期間は茎を立て、そこに葉をつけるものもいます。中根小にはあまり多くの種類は見られませんが、校舎前の植えこみの中や、うさぎ小屋のまわりなどでは何種類かが観察できました。

### ①セイヨウタンポポ（キク科：ヨーロッパ原産）



タンポポは、一年中、地べたに葉を広げていますね？その利点は、お日様の光を全身で受けられること。冷たい北風をまともに受けなくてすむことなどがありました。ただし、まわりに他の植物が茂っているとその陰になってしまい、大切な光を受けられなくなってしまうので、こういう植物は、競争相手のいない開けた土地に生育します。また、あとからまわりの競争相手が葉を広げようになると、タンポポも寄りかかるようにして、葉がやや立ち上がってたりします。



### ②ノゲシ（キク科：ヨーロッパ原産？）

多くは秋に芽生え、冬はロゼットで過ごして、春に茎を立て葉を広げ、冬のはじめまで花を咲かせ、種子を飛ばしてから枯れます。こういう植物を「越年草（えつねんそう）」といいます。葉のふちのトゲは痛そうに見えますが、さわると柔らかく、痛くはありません。



### ③オニノゲシ（キク科：ヨーロッパ原産）

ノゲシによく似ていますが、葉のふちのトゲはさわると痛いんです。気をつけましょう。ロゼットの葉ははじめは切れこみが浅いけれど、だんだんと深くなっていきます。ノゲシとの雑種もあるそうで、ますます見分けが難しくなってきました。



### ④キュウリグサ（ムラサキ科）

これも多くは越年草。春に何本かの茎が伸びて枝分かれし、広がるころには、ロゼットはなくなっています。3～5月ころに、ワスレナグサに似たかわいい小さな花をつけます。葉をもむとキュウリのようなにおいがすることから、この名がつけました。



### ⑤ミチタネツケバナ（アブラナ科：ヨーロッパ～東アジア原産）

これも越年草で、湿った土地に多いタネツケバナに似ていますが、こちらは名前の通り、道ばたなど乾いた土地に多く見られます。また、果実ができるころまでロゼットの葉が残っているのも特徴の一つです。

中根小の校庭の雑草には、帰化植物が多いですね。その意味も考えてみましょう。

【理科支援員 宮内】